

社団法人 全日本学生柔道連盟だより

第1号 1996年12月25日発行 編集・発行 総務担当理事部会

◆社団法人設立祝賀会（羽ばたけ学生柔道）を開催

6月21日（金）東京・銀座の交詢社で

日本のため、地域社会のために、 役立つ人材の育成を 石川忠雄会長が挨拶

1996年3月22日に文部大臣許可を得た本連盟の社団法人設立祝賀会（羽ばたけ学生柔道）は、6月21日（金）、午後6時より東京都中央区銀座の（財）交詢社において開催され、関係者約200名が出席した。

会では、まず石川忠雄会長が挨拶に立ち、法人化の趣旨に触れ、日本のため、地域社会のために役立つ人材の育成に励みたいと抱負を語り、続いて（財）全日本柔道連盟の小粥義朗専務理事（元東京学生柔道連盟会長）、文部省の小林敬治教育助成局長（前体育局長）のお二方より来賓の挨拶があり、小林局長の発声で乾杯、その後、懇談に移った。会場は、全順の法人化が叶ったことを喜び合う和気あいあいとした雰囲気だった。

石川会長の挨拶は次のとおり。

この度、社団法人全日本学生柔道連盟が誕生いたしました。まことにご同慶の至りであり、皆様とともに喜びたいと思います。また本日はお忙しいところを設立祝賀会に沢山の方においていただき大変うれしく思っております。

今から数年前に、任意団体であった日本学生柔道連盟の会長をお引受けした時に、実はこういう風に考えておりました。

学生柔道は申すまでもなく日本の柔道にとって非常に基礎的な大切なものであるけれども、そればかりではなくて学生の柔道でありますから知性の涵養とともに柔道を通じて心身の鍛錬を行い、それを通じて立派な人間がそこに生まれ、それが日本のために地域社会のために役立つ。そういう人材を作り出すことが日本学生柔道連盟の仕事である。そのために自分が多少ともお役に立てば、それをやってみよう。そういうことのために、まず第一に考えなければならないことは、社会に対



社団法人設立祝賀会で挨拶する石川忠雄会長

しても充分責任を負い、且つ社会からも認知されるような組織を持たなければいけない。それをまず持って、それからさらにその内容を充実し、日本の学生柔道というものを益々発展させていく、そういう仕事をするのが大事だろう、そう思ったわけでありました。

そこで、組織ができたわけでありました。その組織の中身をこれからさらに整えて活動を充実し、よりよい環境を学生諸君に与えて、充分に柔道をやってもらい、日本の学生柔道の発展を期したいと思っております。もちろん、そういうことをするために一番大切なことは、学生柔道に関わる人々が皆で力を合わせることであります。そのことも、この全日本学生柔道連盟の大きな一つの仕事として、これから取り組んでまいりたいと思っております。

このような免足の状況に立ち至りましたことにつきましては、実に多くの人々にお世話になっております。文部省の方々にもお世話になりました。全柔連の方々にもいろいろな意味でご支援をいただいたと、私は考えております。また、学生柔道のために今日までいろいろご苦心いただいた方々のご助力も得ているわけです。私は、そういった方々にまずもって心から御礼を申し上げたいという気持ちで一杯でございます。どうぞこれからもいろいろな意味でご協力下さることをお願い申し上げて挨拶といたします。ありがとうございました。

正会員数(地区学生柔道連盟別・1996年11月1日現在)

北海道	東北	関東	東京	東海	北信越	関西	中国四国	九州	合計
35	26	39	54	32	19	50	29	35	319

◆全国大学柔道指導者研修会 (8/20~22)

カラー柔道衣などをテーマに開催

第14回全国大学柔道指導者研修会(主催:財団法人日本武道館、社団法人全日本学生柔道連盟、主管:関東学生柔道連盟)は、1996年8月20日(火)から22日(木)までの3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催された。今回の参加者は9地区学連から50名、運営委員や講師を含めると60名余りであった。

初日の開講式では、主催者を代表して(財)日本武道館の片岡勝治常務理事、当連盟から植村健次郎常務理事が挨拶した。続いて国際武道大学の小村渡岐廣学長が「スポーツと人間形成」と題した基調講演を行った。2日目は、アトランタ五輪の報告や最近の話題であるカラー柔道衣などの問題が取り上げられ、活発なディスカッションが展開され、最終日には、スポーツ医学の観点から「障害と予防」に関する講話が行われた。

今年度は例年に比べ準備が遅れ、やきもきする面もあったが、関東学連の尽力もあって充実した研修会を実施することができた。日程、参加者は次の通り。

★日程

8月20日(火)

14:00 開講式・記念写真

14:30~15:35 基調講演「スポーツと人間形成」

小村渡岐廣(国際武道大学学長) スポーツに対する否定的意見、肯定的意見を例に上げながら語る。

16:20~17:40 講話「講道館柔道の特性」

村田直樹(財)講道館図書資料部次長) 高納治五郎師範の文章を引用しながら特性を説明、今後の課題にも触れる。

19:00~20:10 講話「近代柔道史・女子柔道のオリンピック競技参加の過程を振り返る」

橋本敏明(東海大学体育学部教授) オリンピック競技への女子柔道参加を男子無差別級存続問題と関連させながら説明する。

8月21日(水)

9:00~11:30 オリピック報告

(1) VTR「C.I.O. LE MOUVEMENT OLYMPIQUE」

(2) アトランタ・男子 小俣幸嗣(筑波大学助教授) モスクワ大会以降のメダル獲得数の資料を示しながら世界の柔道の現状を話す。

(3) アトランタ・女子 山口 香(武蔵大学講師) 会場の雰囲気やオリンピックで勝つための要素、日本選手の特徴などに触れながらオリンピックの魅力を語る。

13:30~15:00 カラー柔道衣をめぐる問題

猪熊 真(財)講道館国際事業本部企画室長) カラー柔道衣に関する国際的な流れと問題点を説明し、実際に着用して実技を行う。また、カラー柔道衣の代案としてライン入下ばきや色分けした帯を紹介。

15:20~16:30 審判法について

遠藤純男(秋田経済法科大学教授) 審判員としての基本姿勢、ルールの要点を説明し、実技を行いながら質問に答える。

16:30~17:00 ディスカッション

19:00~20:00 懇親会

8月22日(木)

9:30~11:20 スポーツ選手の障害と予防について

宮崎誠司(東海大学医学部付属病院) 肩、腰、膝等の身体各部位をスライドで紹介し、障害と予防、及びリハビリトレーニングについて説明する。

11:30 閉講式 山口吉輝勝浦市長(財)日本武道館常務理事)から修了証が授与される。

◆通常総会・理事会を開催(東京と大阪にて)

新組織づくりの第一歩を踏み出す

社団法人の会議は、定款で理事会と総会と定められている。それぞれ年に2回、会長が招集して開催しなければならない。そこで、本年度は下記のとおり、開催した。また理事会に関しては、臨時理事会も開催し、さらに理事会を補完する意味で執行部会議(副会長、常務理事、事務局長、競技・組織・財務担当主任)を設け、重要事項を審議している。

(1) 通常総会

第1回 6月21日(金) 東京・(財)交詢社

第2回 11月1日(金) 大阪府立体育会館

(2) 理事会

第1回 4月12日(金) (財)講道館新館教室

第2回 11月1日(金) 大阪府立体育会館

(3) 臨時理事会

第1回 6月22日(土) (財)日本武道館会議室

なお、総会の議事の要領及び議決した事項は、全会員に通知することになっており(定款第28条)、年度内に議事録等を通知する予定となっている。



開講式後に記念写真におさまる参加者
(日本武道館研修センター前にて)



黒帯通信

◆事務局広報『学生柔道23』を発行

事務局では上記のワープロ広報を発行しています。これは、当初、役員（理事・監事）への連絡が目的でしたが、第4号（11月18日発行）からは、各地区学連事務局へも発送することになりました。手作りのA4版用紙1枚の広報紙ですが、役員と全国をつなぐパイプとなることを目指しています。

送付を希望する方は、事務局まで連絡を。

◆本連盟主催競技会は、すべて無事終了

本年度の主催競技会は、すべて終了いたしました。成績一覧は報告書として後日まとめる予定です。また、第13回世界学生柔道選手権大会（12月10日～15日、カナダ・ケベック州ジョンケアー）については、次号でお知らせします。

◆野村忠宏選手（天理大学4年）に学生柔道特別賞を授与

11月2日の全日本学生柔道優勝大会開会式において、アトランタ五輪男子60kg級で金メダルを獲得した野村忠宏選手に、石川忠雄会長より学生柔道特別賞として表彰状と記念品（楯）が授与されました。楯には石川会長自筆の『流水不濁 忙人不老』の言葉が刻まれています。

なお、野村選手は嘉納治五郎杯国際大会（11月23日）でも優勝いたしました。

◆顧問は29名、参与は12名に、賛助会員も入会承認

11月1日の理事会、総会において顧問29名、参与12名の就任を承認しました。現在、事務局で関連の事務手続きを行っているところです。氏名は次号でお知らせします。

また、賛助会員については、10月末日で個人23名、法人2団体の入会申し込みがあり、11月1日の理事会で承認しました。

◆全国体育系大会へ助成

全国的規模の事業に対する助成については、申請件数が1件でした。（第9回全国体育系学生柔道体重別大会及び研修会、1997年2月開催）。理事会で審議の結果、10万円の助成を決定しました。本年度の同趣旨への助成は、これで終了ですが、正会員を対象に全国的規模の事業を実施している団体がありましたら、次年度には是非申請を行ってください。申請時期などについての詳細は、各地区学生柔道連盟を通じて連絡します。

◆連盟の公式マークを募集

社団法人全日本学生柔道連盟の公式マークを募集しています。連盟旗を始めさまざまな分野で使用する予定です。新しい組織には新しいマークを、学生柔道にふさわしいマークをデザインしてみませんか。審査の上、採用者には感謝状呈呈。

申し込み締切日：1997年1月31日（金）必着

送り先：事務局まで

●訃報 葛原靖男氏（(65才)）=本連盟理事、中国四国学連前理事長、呉市議会議員。10月7日午後6時、死去。61歳。

葛原靖男先生を偲んで

中国四国学生柔道連盟理事長 大谷崇正

葛原靖男先生（日学逸程事、中四国学連元理事長、海上保安大学校講師）が病氣療養中、10月7日午後6時逝去されました。61才と云う若さでした。ここに謹んでお悔み申し上げますとともに、あまりにも突然の訃報は我々中四国学連スタッフにとっても残念でなりません。理事長に就任して頂いたとき、長くはしないとの約束であったが、最初の改選期、全柔連との紛争問題を抱え、到底我々では力不足と考慮して継続して頂き、そして次の改選期では全日本学生柔道連盟の法人化のためにと我々は慰留に努め、結局、約10年の長きに渡って中四国学連の索引車となって頂いた。

どのような組織でも長期政権は組織の停滞につながると云われるが、先生はそれも常に考えておられ、いつでも自分が支障なく退けるようにと、少しずつ業務と責任を我々に移譲されることによって活性化を計られていたように感じる。理事長職もこの8月に辞任された矢先の訃報であった。

本当に柔道と学生を純粋に愛した人であったと思う。「学連にはまず学生有りき、学生のために我々は何をすべきか」この様な意味のことをいつも云われ、学連運営にあだられていた。後任である私も、この理念は心に刻んで任務にあたりたいと考えている。

少々個人的になるかも知れませんが、先生は人間に有りかちな、名譽やお金には無頓着で、視野の広い人に優しい性格であった。接した方は誰でもそう感じたはずである。私には「人の生き方、考え方」を多く教えて頂いた気がする。無論、口先だけでなく仕事や雑談を通して、私の心に自然に語りかけてくれた。印象に残る話としては、広島大学柔道部の後輩強化のために塾生を申し出て、夕方抜けることの出来る仕事（レンタカー会社）を始められたこと。そして広島大学を優勝に導かれたこと。漁業会社に就職して捕鯨船団の母船を継いでキャッチャーボートに乗っておられたこと。船が呉港のドック入りを機にそのまま呉市に居着いてしまわれたこと。衆議院選挙の応援を頼まれ独自の選挙運動を展開されたこと。また、政治に首を突っ込んだばかりに、人々に懇願されて市議会議員に出馬。自分の選挙運動は人任せで、それでも皆のお陰で2期当選されたこと等々。おもしろ可笑しく話されるのではなく、寧ろ自分自身を振り返るように、その時々感じたことを話して下さり、その話が私には新鮮で興味をそそるものばかりであった。今一度先生を思い起こしつつ「先生のように自分に素直で自由な人生を歩みたい」と感じている自分を嬉しく思う。ご冥福をお祈り致します。

◆教養講座を開催

第6回(9月)シド・ホア氏(英国)

第7回(11月)ベン・キャンベル氏(米国)

世界の中の柔道を考える

本年度の教養講座は、下記のとおり開催された。偶然にも二回ともに外国人講師となったが、再講師はかつて日本の大学(日本大学・明治大学など)において本格的な柔道修業に励み、柔道がオリンピック競技として初採用の東京大会には、それぞれ母国を代表して出場の経験を持っている。言わば学生柔道の先輩にもあたるわけで、話の随所に日本に対する親しみが感じられた。

●第6回 9月5日(土)午後5時~6時30分、テーマ「柔道は何処へ行くのか」、講師:シド・ホア(元英国柔道連盟会長)出席者約80名。

●第7回 11月13日(水)午後6時~7時30分、テーマ「柔道、日本、そして政治」、講師:ベン・ナイトホース・キャンベル(米国連邦議員・上院)出席者約100名。

○会場は双方ともに、東京霞ヶ関ビル33階の東海大学校友会館。
なお、講演内容は別に小冊子として発行し、会員を始め関係者に配布する予定。



第6回教養講座で講演するシド・ホア氏

第7回教養講座講演後に再会を喜び合う
(中央のベン・ホア氏、右 猪熊 功氏、左 岡野 功氏)

◆古谷七五三次氏(関西学連会長)に藍綬褒章

平成8年度秋の叙勲・褒賞において、関西学生柔道連盟の古谷七五三次会長(ふるたに しめじ(学)大阪産業大学理事長)が藍綬褒章を受章された。

古谷会長は、昭和7年5月3日岡山県に生まれ、昭和31年3月大阪経済大学経済学部を卒業の後、大阪産業大学大阪鉄道高等学校(現 大阪産業大学高等学校)の教諭となり、教頭、校長を歴任するとともに、学校法人大阪産業大学の評議員、理事を務め、経営及び教学の両側面で貢献してきた。平成5年6月に理事長に就任し、現在に至っている。平成6年4月から関西学生柔道連盟の副会長として、平成8年4月からは会長として学生柔道の振興に尽力している。

連盟だよりの創刊について

情報が会員を結ぶことを願って

常務理事 植村健次郎

社団法人として新たにスタートを切って以来、連盟の広報紙(会報)を創刊することが、一つの目標でした。そこで、まず役員間の連絡のために事務局で『学生柔道23』(23の数字は役員総数です)という手作り会報(ワープロ)を作りました。毎月発行の予定でしたが、これとてなかなか思うように進みません。その間、会員名簿作成の業務もあり、やっとそれが終了し、連盟だよりの創刊に至った次第です。創刊号といっても、取り急ぎスタートするという紙面構成ですが、今後は、会員から幅広く情報を集めたいと考えています。また理事会等で審議する事項についても、その都度公開し、会員の皆様に広く周知したいと思います。

情報の公開、そして情報の共有ということが、組織作りには欠かせないと考えます。その意味において、連盟だよりに掲載された情報が、われわれ会員を結ぶことを願っております。

紙面作りに関しましては、会員の皆様方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

編集後記

やっと『連盟だより』をお届けすることができました。ともかくスタート、走りながら考えるパターンで進みます。今後の編集にあたっては会員から寄せられたニュースを多く取り入れ、紙面を構成したいと思っています。会員の皆さん、一緒に走りましょう。(H)

社団法人全日本学生柔道連盟 (ALL JAPAN UNIVERSITY JUDO FEDERATION)

(事務所) 〒102 東京都千代田区北の丸公園3-3 (事務局) 〒112 東京都文京区春日11-16-30 (財) 講道館2階 電話: 3818-1587 FAX: 3818-1760

○当連盟へのご連絡は事務局までお願いします。

(役員) 理事: 石川忠雄(会長) 新橋健司(副会長) 井之上正徳(副会長) 植村健次郎(常務理事) 小野利弘史(組織担当主任) 船橋克彦(競技担当主任)
中川洋一(財務担当主任) 橋本敏明(事務局長) 井浦吉彦 伊藤 剛 遠藤純男 大塚忠也 岡 裕史 小坂幸嗣 眞島 豊 高野幸輔
長谷川: 豊 原 吉美 橋井武司

監事: 金正志 中西徳明 中野 昌

1996年11月1日現在